

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ダイナミック・スウィング	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.482	△RG 0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ダイナミック・スウィング

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

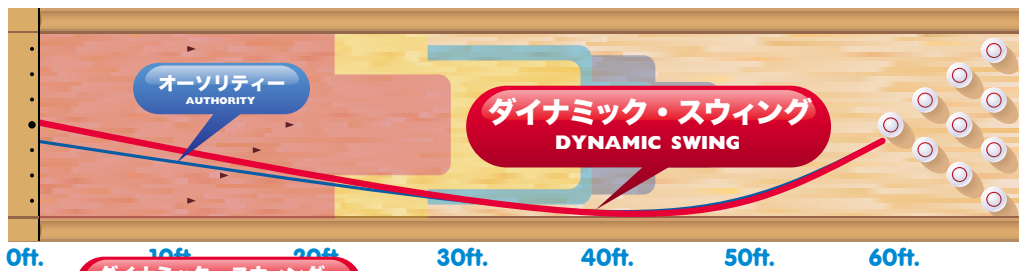
比較対照ボール：オーソリティー

フレアーの幅 インチ

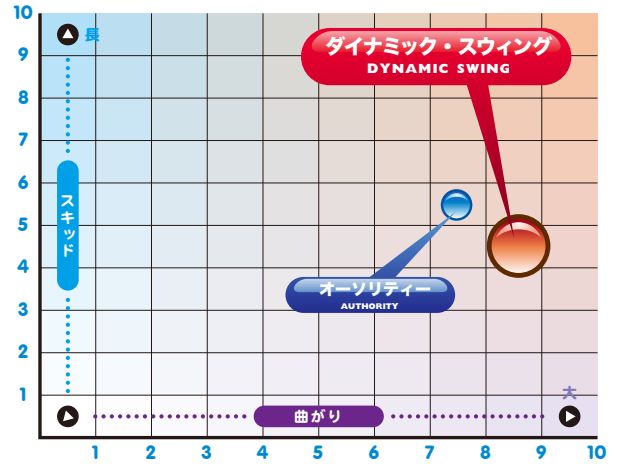
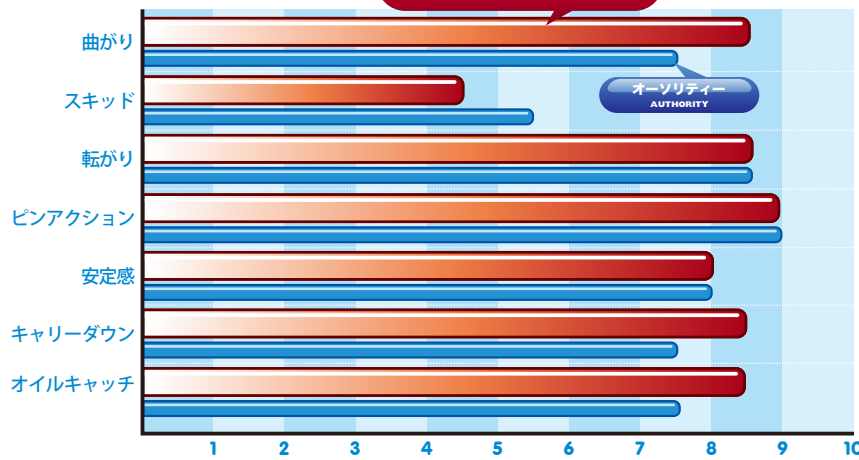
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

以前COLUMBIA社から発売されたMOMENTUM SWINGはプロトーナメントで次々と結果を残し、優勝請負ボールとして伝説とされました。緩やかに強くしかも持続的に曲がるContinuousな動きから攻撃性を高めるためにコア形状を変更し、バックエンドに鋭さを求めたバージョン。それがFULL SWINGでした。今回発売するDYNAMIC SWINGはその当時使っていたFULL SWINGコアをModifyさせ心臓部に搭載。カバーはブランズウィック社のテクノロジーを組み入れたERT Hybridを採用しました。比較対象はAuthority Pearlと行いましたが、当時のFULL SWINGのイメージを今回のDYNAMIC SWINGと比較してみると、FULL SWINGの滑らかなフリップ状の柔らかい切れ味に対し、DYNAMIC SWINGはメリハリ感のある俊敏な反応との差を感じました。FULL SWINGはHookからRoll期がやや長めに感じる動き方に対し、DYNAMIC SWINGは向きの変わり方が一気に俊敏な反応をみせます。これはコアの影響はもちろんありますが、カバーの反応性が現代のERTカバーのほうが鋭くなっている、私が昔描いていたFULL SWINGのイメージは安定感よりは攻撃性のほうが強めにパフォーマンスとして表されていて、ある意味良い方向に期待を裏切られた感があります。

コアの数値だけを見ると慣性が低めの設定で曲がり手前から出そうな雰囲気がありますが、実際のパフォーマンスは後半部分に一番美味しいパワー領域を感じます。コアもさることながらmodifyされた数値とカバーの特性まで、十分練りつくされて出来上がった感じがボールのパフォーマンスとして表れていて、COLUMBIA社の熱量が伝わる出来栄えだと思えます。FULL SWINGというネーミングを聞いた瞬間、当時のボールの性能を思い返し気になっている方も多いと思います。ただ単に復刻ではなく、新たなテクノロジーが追加されたボールです。

特記事項

あのFULL SWINGが新たなテクノロジーを添加され、攻撃的なパフォーマンスとして生まれ変わりました。ダイナミックコア搭載で高反発な力強い飛びも体感できるでしょう。